

“市民による市民のための映像祭”「東京ビデオフェスティバル 2016」
入賞作品として「TVF2016 アワード」(40 作品) を決定

- 応募総数 127 作品 (国内 : 119 作品 / 海外 : 8 作品)
- 60 代以上のシニア世代から 17 作品、20 代までの若い世代から 12 作品が入賞
- ドキュメンタリーから大多数を占める 33 作品 (約 8 割) が入賞
- 入賞者・ビデオファンが集う「TVF フォーラム」を開催 (2月27日(土)・28日(日))
— 「ビデオ大賞」(1 作品) を審査委員が決定・発表する「公開審査会」は初日に実施—

特定非営利活動 (NPO) 法人「市民がつくる TVF」(代表理事 : 小林はくどう) が主催する、今年で 7 回目を迎えた “市民による市民のための映像祭” 「東京ビデオフェスティバル 2016」(TVF2016) には、国内外から 127 作品 (国内 : 119 作品 / 海外 : 8 作品) が寄せられ、このたび、応募作品の中から入賞作品となる「TVF2016 アワード」の 40 作品を決定しました。

今回は、入賞者とビデオファンが集い、映像制作について語り合う「TVF フォーラム」を来る 2016 年 2 月 27 日 (土)・28 日 (日) の 2 日間にわたって開催 (会場 : 法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 *一般開放・有料制)。「TVF フォーラム」では、「TVF アワード 2016」の中から今回を象徴する作品に贈られる「ビデオ大賞」(1 作品) を審査委員が決定・発表する「公開審査会」(第 1 日目・2 月 27 日 (土))、特別賞の「筑紫哲也賞」「サポーター賞」の発表・表彰 (第 2 日目・2 月 28 日 (日)) も実施します。

<応募作品・応募者の概要>

1. 応募総数と国内外内訳

応募総数は 127 作品。国内から 119 作品、海外から 8 作品 (香港・イギリス・ドイツ・フランス)。

2. 最年少応募者 / 最年長応募者

最年少応募者 : 8 歳、最年長応募者 : 89 歳。

3. 世代別傾向

高校生・大学生を中心とする 20 代までの世代から 57 作品 (約 45%)、60 代以上のシニア世代から 47 作品 (約 37%)。今回も両世代からの応募が中心で、あわせて全体の 8 割を占める。

4. ジャンル別傾向

ドキュメンタリーが最も多く 91 作品が寄せられ、全体の約 72% を占める。次いでドラマが 27 作品 (約 21%)、CG / アニメーション / アートが 9 作品 (7%)。

5. テーマ別傾向

- ・ “戦後 70 年” という時期もあつてか、「戦争」をテーマとした作品が目立つ。
- ・ 地域活動・文化・環境等、身近な地域に目を向けた作品。
- ・ 自分の思いや家族の姿などについて、映像を通して、ありのままに描いている作品。

＜入賞作品・入賞者の傾向＞

1. 60代以上のシニア世代から17作品（全体の約4割）が入賞

世代別に見ると、今回も16～83歳までの非常に幅広い世代から入賞しています。最も多くの入賞者が選出されたのは60代以上のシニア世代で、全体の約4割を占める17作品が入賞。テーマを丁寧に、丹念に、じっくりと追っていく、ゆったりとした制作スタンスを持ちながら、確かな情熱を感じさせる作品が見られました。

また、20代までの若い世代からも、高校生・大学生を中心に12作品が入賞。高校生の作品では、若い感性を生かし、テーマや表現に意欲的かつ挑戦的に取り組まれた姿が見えてきます。一方、大学生はテーマ設定を明確にしつつ、問題や課題により深く踏み込んでいく作品が目立ちました。

2. ドキュメンタリーから大多数を占める33作品（約8割）が入賞

今回は、全応募作品を見てもドキュメンタリーに良作が多数あり、入賞作品でも約8割の33作品を占めています。これは「TVF」の特長でもあり、その傾向が例年以上に、如実に表れた結果となりました。その他のジャンルでは、アート4作品、ドラマ2作品、アニメーション1作品が入賞しています。

3. 市民目線から「戦争」に向き合った貴重な映像財産と言うべき作品群

昨年に引き続き“戦後70年”というタイミングもあってか、「戦争」をテーマに設定した作品が目立ちました。当事者の証言をもとに戦時中や敗戦後の事実を追った作品、戦争の真実を初めて当事者に語らしめた作品、開戦とともに一瞬で崩れさった日米友好の姿、いまだに残る戦後の地域再開問題、学徒動員や勤労働員／国際結婚をした家族／ろう者／在日外国人にとっての戦争、在留米軍について当のアメリカ人の立場から問題提起した作品等、市民の視点から戦争や当事者に向き合ったからこそ検証・映像化できた作品群となっています。そして、その全てが貴重な映像財産と言うべき作品です。

4. 市民目線が光る、「地域」「人」をテーマに制作された作品群

今回も身近な「地域」をテーマに据えた作品や「人」に目を向けた作品等、まさに“TVF ならでは”の市民目線が光る作品が入賞しています。

「地域」をテーマにした作品では、200年の歴史を持つ子供参加の地域芸能を記録した作品、震災復興が進む地域の姿を描いた作品がある一方で、震災遺構の保存をめぐる問題から地域の合意形成の難しさを証明したりレポート作品もあり、また東京五輪に裏に潜む都営アパートのエピソード、選挙制度の民主化を訴えるデモを丹念に静的に描写した作品、限界集落で明るく診療に取り組む女医を追いながら地域医療の実態を浮き彫りにした作品等が入賞。同じ「地域」をテーマとしても、伝統継承、問題提起、課題追求等、訴える内容は多岐にわたります。

一方「人」に目を向けた作品では、家族等の身近な人物、地域に貢献した人物、あるいは自分自身等にカメラが向けられています。愛する妻が病死するまでを描いた映像日記、反公害運動の原点を確立した人物の気骨ある生き様、元気でにぎやかなシニア女子会等、映像を通じてそれぞれの人物がありのままに表現されています。

5. アート、ドラマ、アニメーションでは見応えのある7作品が入賞

- ・アート（4作品）：商店街の定点観察やキリマンジャロ登山の体験を描いたドキュメント・アート、プロジェクションマッピングの技法が興味深い美術室の緊張感とストレスが表現された作品、粘菌を観察・撮影した作品が入賞。

- ・ドラマ（2 作品）：高校生が自分の想いを作品に込めた青春ドラマと、小学校の開学 100 周年記念に制作された作品が入賞。
- ・アニメーション（1 作品）：「地球の終末」を警告した CG アニメーションが入賞。

<「ビデオ大賞」の決定・入賞者の表彰>

■2 日間にわたり映像作品について語り合う「TVF フォーラム」で発表・表彰（2016 年 2 月 27 日・28 日）

「TVF フォーラム」は、「人を見つめる」「地域と環境を見つめ、文化を伝える」「戦争の記憶と平和の心をつなぐ」「映像で伝える、楽しむ、つながる」という 4 つのテーマを設定しセッションを開催。入賞者やビデオファンが集い、映像作品について語り合うイベントです。「ビデオ大賞」を決定する「公開審査会」と特別賞の発表・表彰を行う「授賞セレモニー」も実施します。

■「TVF フォーラム」の概要（予定）

[日 時] 2016 年 2 月 27 日（土） 9：30～18：30（交流会 18：30～20：30）

28 日（日） 9：30～16：30

[会 場] 法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 4F S405 教室

（住所：東京都千代田区富士見 2-17-1）

[参加費] 一般：2,000 円（前売り 1,000 円）／学生：1,000 円（前売り 500 円）

*2 日間有効。1 日だけの参加でも同額です。

■「TVF フォーラム」のプログラム（予定） *時間割等、詳細は当法人ホームページ（下記）をご参照ください。

・2 月 27 日（第 1 日目）：フォーラム 2 セッション／公開審査会にて「ビデオ大賞」が決定！

[午前の部] ①セッション 1：テーマ「人を見つめる」

[午後の部] ②セッション 2：テーマ「地域と環境を見つめ、文化を伝える」

③「公開審査会」：審査委員が「ビデオ大賞」をその場で選出・決定

[夜の部] ④交流会 *有料制。一般 3,500 円（前売り 3,000 円）／学生 1,500 円（前売り 1,000 円）

・2 月 28 日（第 2 日目）：フォーラム 2 セッション／「授賞セレモニー」で全受賞者を表彰！

[午前の部] ①セッション 3：テーマ「戦争の記憶と平和の心をつなぐ」

[午後の部] ②セッション 4：テーマ「映像で伝える、考える、つながる」

③「授賞セレモニー」：特別賞^{※1}「筑紫哲也賞」「サポーター賞」発表・表彰

④記念撮影

※1：特別賞について

「筑紫哲也賞」（1 作品）：故 筑紫哲也氏のご遺族により選出、ジャーナリスティックな視点に特に優れた作品に贈呈。

「サポーター賞」（1 作品）：NPO サポーター（賛助会員）による審査投票によって選出、最も投票が多かった作品に贈呈。

<入賞作品の公開（Web 配信）>

■当法人ホームページにて入賞 40 作品を公開中（Web 配信）

当法人ホームページにて、入賞 40 作品の映像^{※2}と作品解説を公開中です。

※2：応募者の都合により、映像公開していない作品もあります。ご了承ください。

■「東京ビデオフェスティバル」公式ホームページ（NPO ホームページ）URL

URL <http://tvf2010.org/>

<「東京ビデオフェスティバル」審査委員（50音順・敬称略）>

大林 宣彦（映画作家）
小林 はくどう（ビデオ作家・成安造形大学客員教授）
佐藤 博昭（ビデオ作家・日本工学院専門学校講師）
高畑 勲（アニメーション映画監督）
村山匡一郎（映画評論家）

（アドバイザー）

椎名 誠（作家）
羽仁 進（映画監督）

<NPO 法人 市民がつくる TVF について>

NPO 法人 市民がつくる TVF は、31 年間の歴史を持つ国際的な映像祭「東京ビデオフェスティバル」（TVF/日本ビクター主催・2009 年 3 月閉幕）の精神を継承し、市民有志が集まって結成した団体です（設立：2009 年 11 月）。ビデオ作品の制作や発表機会を通じて、映像によるコミュニケーションの活性化を図る活動を行っています。

<東京ビデオフェスティバルとは>

「東京ビデオフェスティバル」は、ビデオメッセージの伝達と表現力の向上を目的に 1978 年以来通算 38 回継続開催となる映像祭です。当 NPO の主催となって今年で 7 回目を迎えます。

—— <本件に関する報道関係窓口> ——

特定非営利活動法人 市民がつくる TVF 事務局

E-mail : tvf2016sanka@gmail.com

FAX : 03-6404-6614

*** 記事中の読者様の問い合わせ先も上記でお願いいたします。**

（郵送でのお問い合わせ：〒143-0015 東京都大田区大森西 2-16-2 こらぼ大森内）

< 「TVF2016 アワード」 (40 作品) 一覧 >

NO	作品名	作者名	年齢	作品時間	都道府県
1	命をいただく	有沢 準一	78	9 : 45	北海道
2	伝える、伝わる～生活図画事件の証言～	北海道旭川工業高等学校 KBS 旭工放送局		19 : 10	北海道
3	津波が残した記憶～震災遺構と向き合う町～	北星学園大学 ジャーナリズム研究会		19 : 40	北海道
4	私たちは、【カラフト】を知らない。	稚内北星学園大学 樺太プロジェクト		20 : 00	北海道
5	明治の気骨	石川 勝	61	19 : 56	栃木県
6	小川町のペリカフェ	内田 一夫	79	19 : 48	埼玉県
7	OTOKO80 歳 横好き人生	木下 三重子	75	11 : 06	埼玉県
8	君が笑ってくれるなら	神山 大世 (埼玉県立芸術総合高等学校)	18	19 : 30	埼玉県
9	羽ばたけ 私の子供達	新井 光子	72	16 : 17	埼玉県
10	僕らの終戦	加藤 秀樹	55	10 : 00	埼玉県
11	紫がつなぐ	埼玉県立川越高等学校放送部	17	12 : 13	埼玉県
12	蘇れ森よ～宮崎駿さんの挑戦～	筒井 俊明	76	13 : 50	埼玉県
13	地域をつなぐ～子供歌舞伎～	後藤 アツ子	72	9 : 52	千葉県
14	ろう者が戦争の時代を語る	千葉聴覚障害者センター	38	20 : 00	千葉県
15	青い目の人形物語	中央大学 FLP 松野良一ゼミナール 大関 宏紀	22	17 : 24	東京都
16	韓国のヒロシマ	鈴木 賢士	83	16 : 40	東京都
17	消えゆく都心のふるさと ～東京五輪の裏側で～	東京大学大学院 情報学環教育部 ドキュメンタリー制作実習 B 班		20 : 00	東京都
18	高齢者の女子会	大田 エミ子	76	19 : 10	東京都
19	「ザ・思いやり」 ～石巻・カリフォルニア～	監督：リラン・バクレー、 プロデューサー：高嶋 芳男	51	19 : 57	東京都
20	銃後の乙女と呼ばれて	鳥井 孝紀	65	10 : 00	東京都

NO	作品名	作者名	年齢	作品時間	都道府県
21	たったひとりのお医者さん ～地域医療の現場から～	新行 希望 (法政大学社会学部水島ゼミ)	20	19 : 40	東京都
22	認知症サラリーマン ～もう一度誰かのために～	玉手 秀人 (法政大学社会学部水島ゼミ)	21	19 : 00	東京都
23	八王子空襲の謎	中央大学 FLP 松野良一ゼミナール 平木場 大器	22	14 : 12	東京都
24	KILIMANJARO	齊藤 佳憲	16	10 : 04	神奈川県
25	安心して食べたい ～伝えたい。福島県の水産の今～	西村 晴子	43	15 : 22	神奈川県
26	最強の武器	今野 佑香	18	2 : 32	神奈川県
27	山古志に生きる ～新潟中越大地震から 10 年～	金子 喜代子	76	13 : 30	神奈川県
28	照子の闘い	福住 尊真	74	18 : 56	岐阜県
29	Selection of Life	大内清樹 (成安造形大学)	35	4 : 09	京都府
30	最後の田んぼ	合原 一夫	82	14 : 48	大阪府
31	進化をなぞる —ニホンアカガエルの観察—	谷口 正治	65	14 : 55	兵庫県
32	雨量計	日高 道德	63	15 : 27	広島県
33	戦後被爆 70 年 生まれ変わる愛友市場	佐々木 博光/星賀 靖典	80/74	17 : 27	広島県
34	波濤のかなたに ～初めて重い口開く元動員学徒～	松田 治三	78	19 : 00	広島県
35	母校は桜	柴口 勲	48	18 : 00	山口県
36	Endlager (最終処分場)	Wasabi Chilli Films (国本 隆史)	34	11 : 00	ドイツ
37	トーの死 (La Mort de Tau)	Jerome Boulbe	46	10 : 16	フランス
38	「スパイ」からの手紙	末盛 亮	45	15 : 21	英国
39	MOKSHA	Jeff,hon-fan Kwok	29	12 : 47	香港
40	店を見る (Shop Watching)	Jolene Mok	31	14 : 24	香港

注)・作者名敬称略。団体入賞のうち年齢表記のあるものは、代表者の年齢。

・国内・海外の順で記載。国内は北から都道府県順・作品名の 50 音順で記載。海外は全て英語表記。